

平成21年度 学校自己評価表(定時制課程) (実施段階)

福岡県立ひびき高等学校長



学校運営計画(4月)				評価(3月)	
学校運営方針		本校教育を通して、志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい人材を育成する。そのために、校訓「自助・自敬・信愛」の精神を培い、指針のない時代を自らの判断でたくましく生きていく力量を育成するとともに、生徒一人ひとりの個性・特質を伸張させ、コミュニケーション能力、判断力、社会性を向上させていく。また、保護者・同窓会・地域・中学校等に支援され、ニーズに応える学校づくりを目指す。			
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標		
昨年度は、特別進学クラスの設置等、多様な学習ニーズに対応するとともに、スポーツ大会、夏季宿泊研修会等を実施し、生徒の帰属意識を高めることができた。また、地域に開かれた学校を目指し、公開講座、研修会等を実施し、本校の教育活動を伝えることができた。今年度は、創立7年目を迎え、新校舎も完成し、ニーズに応えるべき更なる方策を講じ、生徒の学ぶ意欲・自尊感情、規範意識の向上と進路意識、社会性を育む教育活動の充実・深化に尽力する。		魅力ある授業づくりの推進、特色のある新しい講座の設定、多様な学習ニーズの調査研究を通して、学ぶ喜びを共有する学習活動をつくりあげる。 安全・安心と規律・マナーを確保し、やすらぎのある学びの環境を提供し、奉仕体験活動を通じて意欲と思いやりを持ち、社会性のある生徒の育成を図る。 高大等連携事業・インターシップの充実を図り、きめ細かい進路学習を行い、ガイダンス機能を充実させることにより、進路目標の早期決定を促し、生徒の個性を伸長して、一人ひとりの希望に応じた進路実現を図る。 体験と行動を重視し、コミュニケーション能力を培い、国内外の教育機関と連携し、幅広い外国との交流に取り組み、地球市民意識の向上を図る。	生徒授業評価、学校生活アンケートの分析を通じて生徒のニーズを的確に把握する。また、学習指導の研究を推進し、教師の力量を向上させるとともに、新しい学校設定科目の設置等を通じて、学ぶ喜びを感じる授業づくりを構築していく。 マナーアップひびきや授業マナーアップ週間の活動を通して、規律、マナーの向上を図り、生徒会活動及び生徒の奉仕活動を活性化させ、学校行事の充実、学校環境の維持向上を図り、生徒のやすらぎのある教育環境を創造する。 各年次と連携し総学やホームルームでのキャリア教育を充実させ、早期に進路目標を決定させ、進路目標と合致した受講ガイダンス・受講登録を実現する。さらに、高大等連携、インターシップ活動の啓発に努め参加者の増加を図り、生徒の職業観、社会性を高め、一人ひとりの希望に応じた進路の実現を果たす。 ユネスコ共同学校としての活動を充実させ、米国イースト高校や環境ミュージアム等の教育機関と連携し、生徒の国際交流を実現させるとともに、テレビ会議等を活用した異文化理解教育を推進する。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務部	教務部	生徒の学習ニーズを調査分析し、3講座以上の特色のある新講座の設定を行う。	A	A	生徒の意識調査・授業評価を行うと共に学習指導力向上を目的とした「評価」「道徳」に関する研修会や新学習指導要領導入の勉強会等、授業相互参観や研究授業等を実施してきた。次年度もこうした評価・研修を一層推進していく。また、今後とも本校の特色のある教育活動を積極的に地域社会に伝えていくことで、青少年の学びや生涯学習の場を保障していく。
	教務課	生徒アンケートや学力診断を通して、生徒の学力や真のニーズを把握する。	A	A	
	情報システム課	授業におけるIT活用の能力を高めるための、校内研修会を1回以上企画する。	B	A	
	研修・図書課	授業に関する研修を1回以上開催し、教職員の専門的資質を高める支援を行う。	A	A	
	庶務・広報課	学校図書館の活用促進を促し利用者数の1割増加と視聴覚教室の整備を図る。	B	A	
生徒指導部	生徒指導部	早期の日程調整と計画立案に心掛け、行事の円滑な運営を図る。	A	A	生徒指導課は全職員で取り組む校内外の巡視が定着し、交流大会など学校行事も充実した。修学課は不登校・退学者減少のため家庭訪問等更なる早期対応に努める。保健課では新型インフルエンザの迅速な対応で流行を最小限度に食い止めた。次年度は毎月行われる清掃活動を定着させる。
	生徒指導課	H P の運営、体験入学、中学校訪問等積極的な広報活動で、志願者1割増を図る。	A	A	
	修学課	生徒会活動を活性化させ、学校行事の充実に努め、魅力ある学校作りを推進する。	A	A	
	保健課	優しさを培う多様な奉仕・体験活動を呼びかけ、地域に根ざした学校作りを推進する。	B	A	
ガイダンス部	ガイダンス部	校内・校外の巡視を組織的に全職員であたり、校内・校外でのマナー向上を目指す。	A	A	ガイダンス部内の仕事内容の明確化もでき、それぞれの課から全教職員へ進路指導について発信できたが、入学から卒業までを見通したキャリア教育、進路指導計画を具体的に提示していきたい。さらに、生徒の進路意識向上に繋がる手だてを各課から発信することにより、進路実現へつなげたい。
	進路指導課	美化活動や奉仕活動を活性化させ、安心できる教育環境をつくる。	B	A	
	ガイダンス課	毎週1回会議を開き生徒の状況把握を行い、家庭訪問等組織的な支援と指導に取り組む。	A	A	
	進路渉外課	毎月1回、生徒情報交換を開き、全職員が情報を共有し、生徒の学校生活を支援する	A	A	
年次部	年次部	諸検診の円滑な運営を心がけ、生徒の健康管理のため、受診率100%を目標にする。	A	A	学校行事を通じて生徒同士のつながりを持たせることが出来たが、中途退学者の減少は目標にやや届かなかった。年次職員間の情報の共有により、協力関係を築くことができ、問題を抱えた生徒への対応や、年次行事の実施がスムーズに出来た。年次通信の定期的な発行で家庭との連携ができた。
	新入生年次	保健便りを毎月発行し、生徒・保護者の健康管理・環境美化意識の向上を図る。	A	A	
	在校生年次	キャリア教育の視点を導入し、能力や適性を生かした進路希望の実現をサポートする。	A	A	
	卒業生年次	各課の連携の強化や生徒の進路情報を教員間で共有し、進路決定率を10%向上させる。	B	A	
年次部	年次部	適切な資料を提供し、H R 活動や総学を通してキャリア教育を充実させ進路実現を図る。	A	A	学校行事を通じて生徒同士のつながりを持たせることが出来たが、中途退学者の減少は目標にやや届かなかった。年次職員間の情報の共有により、協力関係を築くことができ、問題を抱えた生徒への対応や、年次行事の実施がスムーズに出来た。年次通信の定期的な発行で家庭との連携ができた。
	新入生年次	各種進学模試や就職・公務員等の校外模試受験者10%増を実現し、進路実現に繋げる。	A	A	
	在校生年次	近未来ガイダンスの準備を綿密に行い、生徒の興味関心を引き出す講義を開催する。	A	A	
	卒業生年次	進路実現に向けた受講ガイダンス登録に関する研修会を2回以上実施し、指導力を高める。	A	A	
年次部	年次部	高大等連携事業・企業訪問・インターシップの充実と資格取得率を向上させる。	B	B	学校行事を通じて生徒同士のつながりを持たせることが出来たが、中途退学者の減少は目標にやや届かなかった。年次職員間の情報の共有により、協力関係を築くことができ、問題を抱えた生徒への対応や、年次行事の実施がスムーズに出来た。年次通信の定期的な発行で家庭との連携ができた。
	新入生年次	希望進路実現に向け資格試験の細かい情報提供を行い、資格取得率10%向上を目指す。	B	B	
	在校生年次	特別活動への積極的参加を促進し、生徒間のコミュニケーションを促進させる。	A	A	
	卒業生年次	家庭との連携及び本校の教育相談体制を活用して、中途退学者の3割削減を目指す。	B	A	
年次部	年次部	全生徒及び保護者との面談を早めに行い、信頼関係や連携できる関係を構築する。	A	A	学校行事を通じて生徒同士のつながりを持たせることが出来たが、中途退学者の減少は目標にやや届かなかった。年次職員間の情報の共有により、協力関係を築くことができ、問題を抱えた生徒への対応や、年次行事の実施がスムーズに出来た。年次通信の定期的な発行で家庭との連携ができた。
	新入生年次	生徒の出欠状況を毎日欠かさず記録・確認し、各分掌と連携して生徒の出席指導にあたる。	A	A	
	在校生年次	年次のミーティングを毎日行い、生徒の状況をリアルタイムで共有する。	A	A	
	卒業生年次	生徒とのコミュニケーションを図るために、毎日必ず3人以上の生徒へ話しかけを行う	B	A	
年次部	年次部	生徒及び保護者への年次通信を毎学期発行して、生徒・保護者との情報の共有を図る。	A	A	学校行事を通じて生徒同士のつながりを持たせることが出来たが、中途退学者の減少は目標にやや届かなかった。年次職員間の情報の共有により、協力関係を築くことができ、問題を抱えた生徒への対応や、年次行事の実施がスムーズに出来た。年次通信の定期的な発行で家庭との連携ができた。
	新入生年次	生徒へのキャリア教育を推進し、進路希望達成率100%を目指す。	B	A	